

平成29年度東京都立富士高等学校学校経営報告

29年度の学校の目標	実施内容
1 授業の充実	<p>① 難関国公立大学・私立大学合格に必要な学力を育む授業を推進するため、学力テスト分析を組織的に実施し、授業改善に生かす仕組みを整えた。富士アカデミー（発展的内容の講習）、富士サポート（基礎・基本の定着を図る講習）に加え、早朝や放課後、土曜日の講習を計画的に実施した。また、高校1年生及び2年生について、朝のSHR後の時間を活用した朝学習が定着している。</p> <p>② 生徒による授業評価を7月と12月の年2回実施した。生徒の授業満足度は85%を超えている。7月の授業評価は集計・分析をし、課題及び学力向上を図る上で必要な授業改善の方向性を具体化した。</p> <p>③ アクティブ・ラーニング型授業の導入・定着に向け、校内研修を実施するとともに、ディベート、グループ学習、共同学習など、相互に意見を発表する場を設けて、生徒のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上を図る授業を実施した。</p> <p>④ 教育用ICT機器を活用した授業は、地歴・公民、数学、理科、情報、外国語で効果的に行われており、わかる授業、学力が身に付く授業を推進している。</p> <p>⑤ 進路学力部が所掌する学力分析会を、全教員の悉皆研修として計画的に実施した。教科の枠を越えて情報共有を図るとともに、成果と課題の分析に基づき、指導方法の改善に生かした。</p> <p>⑥ 自習室について、平日は19:00まで、長期休業日等は8:30から17:00まで開放し、生徒の自主学習を支援した。長期休業日中は、補習、講習を計画的に実施し、夏季は101講座を開講。高校3年生は主に受験対策、高校1・2年生は基礎学力の定着、応用力の伸長を目指した。また、外部人材による自主学習支援事業を活用し、東大、東工大、一橋大学生による学習支援を年間334時間実施し、生徒の学力向上に努めた。</p>
2 進路支援	<p>① 富士シラバスをHP上に公開し、各授業担当者が年間授業計画や評価の観点等を説明し、評価方法の明確化及び定着を図った。</p> <p>② 学力テスト等結果分析会を年間6回実施。外部講師による現状分析・学力把握に基づき、生徒一人一人の指導・支援に生かした。また、各担任はこの分析結果に加え、Classiを通して、自宅学習時間記録調査等の結果を踏まえ生徒面談を実施し、自己理解の深化や大学志望学部選択、学習意欲向上を支援した。また、高校3年生を対象にした志望校検討会を年間2回実施し、志望大学の決定や受験対策等、きめ細かな指導に生かした。</p> <p>③ キャリア講演会を計画的に実施し、望ましい職業観を育むとともに、将来の在り方生き方を考える契機とするなど、キャリア教育の充実を図った。</p> <p>④ 教科主任会を年間11回開催し、授業の目標設定、学力テスト結果の分析及び活用方法等について協議し、学力向上策の目線合わせ・具体化を図った。</p>
3 生活指導	<p>① 生徒会主催による朝の挨拶運動やボランティア活動を実施した。生徒が自ら進んで取り組む姿勢や態度を引き続き育成していく。</p> <p>② 品位あるみだしなみを促す指導を行った。引き続き、服装に関するルールを明確にし、品位や感性の向上を図り、ルールやマナーを守る態度を身に付けさせる指導を継続する。</p> <p>③ 清美委員会による教室美化点検活動を組織的に実施した。</p> <p>④ 宿泊防災訓練や防災徒歩避難訓練を実施し、防災意識の向上とともに、集団での秩序ある行動や規律の必要性及び自助・共助の大切さを考える契機とした。</p>
4 特別活動、部活動の推進	<p>① 生徒の部活動加入率は110%である。スポーツ特別強化校予算、部活動振興予算、青少年を育てる課外活動支援事業予算等を有効に活用し、全校で協力して部活動の振興を図った。今年度、陸上部が全国大会出場、薙刀部、剣道部、陸上部が関東大会出場を果たすなど、高い実績を残した。また、この3部は、今年度、スポーツ特別強化校に指定された。</p> <p>② 体育祭、文化祭、合唱祭の3大行事について、実行委員会を組織させ、生徒が主体的に運営する指導を行った。附属中学校との同時開催のため、6学年総勢約1,000名の生徒を指揮させることで、自主自律の精神及び協力する姿勢を育んだ。</p> <p>③ 高校1年生は奉仕体験活動で神奈川県宮ヶ瀬ダムを訪れ、外来種の抜根作業、植樹体験等を行い、互いに協力する態度や思いやりの心、奉仕の精神を育んだ。</p> <p>④ 近隣の特別支援学校でのボランティア活動や地域清掃活動等を実施し、地域との連携を深めるとともに、生徒の社会貢献の精神を育んだ。</p> <p>⑤ ごみの分別・減量や校内美化について、保健部が生徒委員会活動を指導し、校内美化の達成に成果を上げた。</p>
5 学校PR	<p>① 昨年度に引き続き、併設型中高一貫教育校グループ作成問題解説授業や平日及び土曜日の学校見学を計画的に実施した。学校説明会、体験授業、体験部活動、授業公開週間、出前授業について、全校を挙げて組織的に取り組み、本校の教育活動の様子を外部に積極的に発信することができた。</p> <p>② 中学生やその保護者が求める情報等を把握し、適切に提供できるよう、説明会実施後にアンケート調査を実施し、改善に生かした。</p> <p>③ 入学者選抜における応募者数増加を図るため、地域の中学校等が主催する上級学校説明会に積極的に参加した。</p>

6 中高一貫教育校の 確立	<p>①中高合同での企画調整会議、職員会議、分掌会議を計画的に実施。中高籍にかかわらず、教科指導の相互乗り入れを推進し、授業、補習、講習、集中講座等を中高が一体となって実施した。</p> <p>②中高一貫教育校の特色化を推進する取組として、オーストラリアへの短期語学留学を計画どおり実施し、昨年姉妹校締結を行った国際交流の推進を深めた。異文化理解や国際感覚の向上等、所期の目標を達成している。25年度入学生から導入した探究力育成のための講座「探究未来学」を学校設定科目として理数アカデミー2年目の中、内容の充実を図るとともに、3月に中間発表会を実施した。</p> <p>③教育活動の効果をより一層高めるため、平成26年度第2学年より難関クラスを設置し、高度な学力向上に努めている。</p>
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【29年度の主な数値】

() 内の数字は28年度

- (1) 大学入試センター試験において、
5教科型の受験者を110名(在籍者の55%)以上にする。42.5%(前年度96名、50%)
5教科型の受験者のうち、得点率80%以上の者を20人以上にする。18人(前年度15人)
5教科型の受験者平均点を650点とする。615点(前年度612点)
- (2) 難関国立大学現役合格者数を5名以上、国公立大学現役合格者数を50名以上にする。4名 45名(前年度5名、37名)
- (3) 難関私立大学(早慶上理)現役合格者数を75名以上にする。51名(前年度67名)
- (4) 高校2学年の秋の外部模試で3教科の偏差値60以上を30%にする。33%(前年度32%)
- (5) 夏季講習を100講座以上実施し、難関大学講座を20講座開講する。
- (6) 探究未来学で自分のテーマに関する専門書を一人一冊以上読ませる。
- (7) 年間皆勤及び年間精勤の生徒の割合を各学年50%以上にする。
- (8) 学校評価アンケートの項目「私は部活動や学校行事に満足している」に対する生徒の肯定的な評価を85%以上にする。
- (9) 土曜日の授業公開(土曜日の学校説明会も含む)合計来校者数を3500名以上にする。3201人(前年度3403名)
- (10) 受検応募倍率を、推薦に基づく選抜3.0倍以上、第一次募集1.6倍以上にする。
推薦 2.44倍、第一募集 1.61倍
(前年度 推薦:3.25倍、第一次募集:2.00倍)
- (11) 朝及び放課後の自習室の活用者数を一日平均50名以上にする。63人
- (12) 部活動の個人・団体での関東大会・全国大会出場を5以上とする。5
- (13) 学校ホームページのアクセス数を5万回以上にする。2,021,798回
- (14) 新体力テストの平均値を全国平均以上に高める。5項目優良 2項目平均以下(前年度体力合計点が平均点以上)
- (15) 部活動加入率を100%以上に維持する。110%(110%)
- (16) 体罰事故を0件とする。0件(0件)

自己評価

○学習・進路指導

22年度から開始した富士メイクアップシステム(定期考査5回に9月と1月の総合考査を加えた計7回の考査実施)に基づき、評価を行う流れは定着した。スモールステップを踏み、きめ細かな指導を継続することで、学力の着実な定着を図る取組は、一定の効果을上げている。一昨年度より総合考査内容の一部を、その後の学力テスト内容と連動するものに改善している。考査と学力テストを連動させ、生徒が効率よく計画的に学習を進めることができるよう、引き続き指導を行っていきたい。

今年度は、教科主任会を年間11回開催した。会議には進路学力部主任、教務情報部主任が参加することで、教科の枠を越えた全校的な視点で課題を把握・整理し、改善策を具体化する体制を整えた。この会議では「学力向上を図るための取組シート」を活用して目標管理を計画的に行い、5教科7科目型受験生が増加し、現役合格者数は国公立大学でのみならず、難関私立大での合格の成果を上げることができた。また、都教育委員会の進学対策指導訪問による指導・助言内容を教科主任会での協議に反映させ、生徒の学力向上を図る取組として具体化した。本校の生徒にフィットした効果的な学習指導をより一層推進するため、教科主任会を引き続き機能させていく。

秋には、教員研修として予備校東大模試作成者によるテスト問題作成のねらいと活用を講義して頂き、教師力を上げた。500時間程度の放課後や授業のない土曜日を中心に大学生を配置し、生徒は問題の解法に係る質問や進路相談等の自主学習支援を行った。自習スペースは19時まで開放しており、部活動後に部単位で利用するなど活用が促進されている。

○募集対策等

中高一貫教育校における高等学校受検者を確保する効果的な募集対策方法を引き続き検討する必要がある。次年度は、理数アカデミー、スポーツ特別強化校の取組、探究活動のより一層の充実、部活動の成果、海外修学旅行及びオーストラリア短期語学研修の実施、卒業後の進路実績等、本校の特色や強みをアピールし、効果的な募集活動

を展開していく。

○特別活動

部活動においては、加入率は兼部を含め110%と高い。部活動振興予算等を活用し外部指導員を導入するなど、運動部、文化部の活性化を図っている。薙刀部、剣道部、陸上部は関東大会に出場した。また、この3部はスポーツ特別強化校として、錬成に努めている。茶道部は東京都高等学校文化連盟加盟校として種々の茶会への参加、管弦楽部は式典での演奏、定期演奏会の開催、科学探究部はサイエンスアゴラへの出展等、文化部も成果を上げている。今後も文武両道、自主自律の校訓のもと、部活動や学校行事の活性化に努めていきたい。